出題趣旨・採点基準（民法） 配点 100 点

第１問は、同一動産につき一方で譲渡担保、他方で譲渡担保および保険金請求権についての債権質が競合した事例に関する。問１では、譲渡担保権に基づく物権的請求権行使の可否、占有改定による即時取得の成否および後順位譲渡担保権の実行の可否について問うている。問 2 では、動産譲渡担保に基づく物上代位と債権質の優劣について、抵当権に基づく物上代位と債権譲渡に関する判例法理および動産売買先取特権に基づく物上代位と債権譲渡に関する判例法理を踏まえつつ検討することを求めている。

第２問は、所有者が土地を売却し、買主が同土地を第三者に賃貸した後、売買契約が解除された事例に関する。問１では、契約解除による本来的帰結、民法 545 条１項但書の「第三者」として保護される要件のほか、保護が肯定される場合における賃貸人たる地位の移転や賃料請求の要件について問うている。また、問２では、契約解除による原状回復義務に関して既払代金や土地の占有・登記・果実の返還、減価分にかかる価額返還を問うほか、解除後に買主が受領した賃料について不当利得の成否を問うている。

これによって、基本的な法律科目に関する基礎的学識を習得し、法的な思考・判断力、理解・分析力及び表現力を備えているかどうかを判定した。